

## 定期報告(ウルグアイ政務・経済:2023年3月)

### 【ポイント】

#### 内政

- 1日、当国厚生省は、新型コロナウイルスに関する入国措置の変更を発表。入国時の要件である衛生措置をすべて廃止。
- 2日、ラカジェ・ポウ大統領は施政方針を表明。
- 13日、サリーナス厚生大臣が辞任し、後任としてランド厚生省調整総局長が厚生大臣に就任。

#### 外交

- 7日、ブスティージョ外相、アルベレチェ経済財務大臣、ファレロ運輸公共事業大臣がブラジルを訪問。
- 7日～8日、EUメルコスール FTA 首席交渉官会合がブエノスアイレスで開催。
- 9日、当国外務省は、日ウルグアイ・ワーキング・ホリデー制度に関するプレスリリースを发出。
- アルベルト・ニ外務次官はインドを公式訪問し、第5回印ウルグアイ政策協議を実施。
- 14日、当国外務省にて、第2回仏ウルグアイ二国間政策協議メカニズム会議を実施。
- 17日、ブスティージョ外相はカフィエロ亜外相と外相会談を実施。
- 20日、ラテンアメリカ社会科学研究所(FLAGSO)ウルグアイは、北京語言大学(BLCU)との間で協力協定を締結。
- 24日、ラカジェ・ポウ大統領は、イベロアメリカ・サミットの開催地ドミニカ共和国でフェリペ6世・スペイン国王及びポリッチ・チリ大統領との会談を実施。また、ブスティージョ外相は、アルバレス西外相、ヴィエラ伯外相及びマリア・ウバック・フォン・アンドラ外相との会談を実施。
- 25日、ラカジェ・ポウ大統領は、ブスティージョ外相とともにドミニカ共和国で開催されたイベロアメリカ・サミットに出席。
- 26日、デイビッド・コーエン CIA 副長官が当国を訪問。
- 29日、パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣及びロベルト・ハーベック独副首相兼経済・気候保護大臣は再生可能な資源と代替燃料の開発における共同活動を展開するための両国間の技術協力及び知的交流の枠組み設立に係るエネルギー協定に署名。

#### 経済

- 中国の企業家でアリババグループ創始者のジャック・マー氏が、当国を訪問。
- 6～17日、パウ・ラバナル IMF 調査部副部長率いる IMF ミッションがモンテビデオを訪問、ウルグアイ当局との2023年4条協議を実施。
- アルベレチェ経済財務大臣は、公共政策及び財政政策促進のための IDB からの借入1億4,500万ドルに署名。

### 【本文】

#### 1 内政

##### (1) 入国措置の変更

1日、当国厚生省は、新型コロナウイルスに関する入国措置の変更を発表。2020年3月13日発令の政令に

規定された国家衛生緊急事態宣言の枠組みで発効されていた当国入国時の要件である衛生措置をすべて廃止した。今次変更により、年齢や国籍に関係なく、旅行者は新型コロナウイルスワクチン接種証明書も陰性検査証明書も提示を要求されない。一方で、如何なる手段での入国においても、外国人に対しては、ウルグアイで有効な健康保険または医療保険の加入がこれまで同様必要とされる。

#### (2) ラカジェ・ポウ大統領の施政方針演説

1日、本年度の当国国会が開会。2日、ラカジェ・ポウ大統領は施政方針を表明した。同演説でラカジェ・ポウ大統領は、昨年7月に中国 FTA に向けた F/S が完了し、同年 CPTPP 加入申請書を提出したことや、約4万人の雇用創出を達成し失業者数が減少したこと、AI 及び IoT 開発のためのマイクロソフト研究所が開設予定であること等について発言した。また同大統領は、減税措置にかかる方針を発表し、非課税対象者が増加する見込みである旨説明した。

#### (3) 支持政党に関する世論調査結果

7日、当地世論調査会社 CIFRA 社は、2月15日から27日にかけて全国18歳以上の1,007名を対象に行った「今日選挙が行われたらどの政党に投票するか」に関する世論調査結果を発表(誤差±3.1%)。同調査の結果は以下のとおり。

- ア 野党拡大戦線(FA):43%
- イ 与党国民党:30%
- ウ 連立与党コロラド党:3%
- エ 連立与党カビルド・アビエルト党:2%
- オ 連立与党独立党:1%
- カ 連立与党またはその他の政党と回答:2%
- キ 未決定・白票・無回答・その他:19%

#### (4) ラカジェ・ポウ大統領支持率世論調査結果

9日、当地世論調査会社 EQUIPOS 社は、2月16日から26日にかけて全国18歳以上の1,205名を対象に行った「ラカジェ・ポウ大統領の支持率」に関する世論調査結果を発表(誤差±2.8%)。同調査の結果は以下のとおり。

- ア 支持する:45%
- イ 支持しない:34%
- ウ どちらでもない:20%
- エ 分からない・無回答:1%

#### (5) 厚生大臣の交替

13日、サリーナス厚生大臣が辞任し、後任としてランド厚生省調整総局長が厚生大臣に就任。ランド厚生大臣は就任演説の中で、学校での食品を規制する法整備が継続され、健康に有害な食品の消費規制に関しても今後進展すると報告。また同大臣は、乳がん、子宮頸がん及び大腸がん検診の改善や放射線治療の改善に向けた取組が継続されると述べた。

#### (6) 野党拡大戦線(FA)人民参加運動(MPP)派の次期大統領選予備選挙候補の決定

野党拡大戦線(FA)の人民参加運動(MPP)派は、同派の党大会において、オルシ・カネロネス県知事を2024年に行われる次期大統領選候補者として予備選挙に出馬させる正式決定を行った旨発表。オルシ県知事は、今後数か月でFA党内の支持者獲得を目指す。なお、今次大会には、ペレイラFA党首、ムヒカ元大統領、トポランスキー前副大統領らが出席した。

## (7) 鳥インフルエンザワクチンの購入

当国政府は、当国農牧水産省のワクチン委員会による勧告に従い、鳥インフルエンザの脅威を考慮し、商業用農場の家きんへのワクチン接種を開始するためのワクチン購入手続きを開始した。マツス農牧水産大臣によると、1,000万回分のワクチン購入のための入札が行われ、2回の接種計画が想定されている。またワクチンはフランスとメキシコから購入予定。3月時点で、カネロネス県、フローレス県、マルドナド県、モンテビデオ県、及びタクアレンボ県の5つの県で7件の発生が確認されている。

## 2 外交

### (1) ブスティージョ外相らのブラジル訪問

7日、ブスティージョ外相、アルベレチェ経済財務大臣、ファレロ運輸公共事業大臣がブラジルを訪問。ヴィエイラ伯外相他関係閣僚と会合を行い、共同声明を発出した。同共同声明では、国境地域の開発に向けた主要プロジェクトを推進するために協働することや、EU・メルコスール FTA 交渉に共に取組む旨等が組み込まれた。

### (2) EU メルコスール FTA 首席交渉官会合

7日～8日、EU メルコスール FTA 首席交渉官会合がブエノスアイレスで行われた。メルコスール代表団はアルゼンチンが議長を務め、加盟4か国の代表が参加。EU 代表団は、対外活動庁及び貿易庁の代表が参加した。同会合では、EU メルコスール協定の深化のための枠組みとして、持続可能な開発における3つの分野（経済、社会、環境）について協議された。

### (3) 「米ウルグアイ二国間貿易・投資」イベントの開催

9日、ウルグアイ商工会議所及び米ウルグアイ商工会議所主催で「米ウルグアイ二国間貿易・投資」イベントが開催された。フルトン駐ウルグアイ米大使は、ウルグアイ人が米国に投資または起業するといった貿易・投資強化を米国は模索していると述べ、より大きな相互協力を生み出せる勢いのある経済セクターとして、農業とテクノロジーサービスがそのポテンシャルを示していると述べた。

### (4) 日ウルグアイ・ワーキング・ホリデー制度

9日、当国外務省は、日ウルグアイ・ワーキング・ホリデー制度に関するプレスリリースを発出。3月1日より日ウルグアイ・ワーキング・ホリデー制度が発効し、日ウルグアイ双方18歳～30歳の若者が年間100人、1年間、相手国に居住し、休暇と仕事を交えながら、相手国の日常生活や文化を経験することが可能となる。

### (5) アルベルトーニ外務次官のインド訪問

アルベルトーニ外務次官は、インドを公式訪問。同訪問の枠組みで第5回印ウルグアイ政策協議が行われ、アルベルトーニ外務次官は、ソーラブ・クマール・インド外務省東担当次官との間で経済、貿易、政治、及び文化協力について協議を行った。またアルベルトーニ外務次官は、ライシナ対話で講演を行い、さらにインド企業及びインド当局関係者出席の下、印ウルグアイ商工会議所の開所式に出席した。

### (6) 第2回仏ウルグアイ二国間政策協議メカニズム会議

14日、当国外務省にて、第2回仏ウルグアイ二国間政策協議メカニズム会議が行われた。ウルグアイ側はアルベルトーニ外務次官、フランス側はラミス仏外務省米州・カリブ局長が代表を務め、両国は様々な分野における優れた二国間関係を指摘し、特にモンテビデオ・パスツール研究所での科学協力を強調した。また同会議では、様々な共通の主要関心テーマを確認し、関係深化の継続に向けた今後の発展のための具体的な行動を定めた仏ウルグアイ・ロードマップの署名式が行われた。

### (7) 第13回南部農業審議会臨時会合の開催

第13回南部農業審議会臨時会合がコロニア県にて開催され、ウルグアイ、アルゼンチン、ブラジル、チリ、パ

ラグアイ、ボリビアの農牧大臣等が同会合に出席。ラカジェ・ポウ大統領も参加した。同会合では、気候変動、水不足、貿易制限、鳥インフルエンザ、植物検疫に関する分析が行われ、マツス農牧水産大臣は、水不足や鳥インフルエンザが懸念される中で同会合に大統領が初めて参加したことについて高い評価の意を表した。

#### (8) 亜ウルグアイ外相会談

17日、ブスティージョ外相は当国訪問中であったカフィエロ亜外相と外相会談を行い、ラ・プラタ川及び海上境界線に関する協定(Tratado del Rio de la Plata y su Frente Maritimo)(1973年11月19日締結)50周年記念の枠組みで本年4月に首脳会談を開催することに合意した。また両外相は、メルコスールの近代化と強化の枠組みで協力及び対話の積極的なアジェンダを構築し続けるためのチャンネルを強化し、域内外貿易を強化する重要性を強調した。

#### (9) 北京語言大学と FLACSO ウルグアイとの学術協力協定

20日、ラテンアメリカ社会科学研究所(FLACSO)ウルグアイは、北京語言大学(BLCU)との間で協力協定を締結。今次協定締結による活動内容として、ウルグアイ初の中国研究センターの設置、及び中国哲学・文化講座の開講があり、両プロジェクトは FLACSO ウルグアイが運営することになる。また、本協定は、中国・ウルグアイ外交関係樹立35周年を記念した枠組みの中に位置づけられており、両国間の学術関係を緊密化することを目的としている。

#### (10) チリ・ウルグアイ首脳会談及びフェリペ6世・スペイン国王との会談

24日、25日にドミニカ共和国で開催されたイベロアメリカ・サミットの枠組みの中で、ラカジェ・ポウ大統領は、フェリペ6世・スペイン国王及びポリッチ・チリ大統領との会談を行った。ポリッチ・チリ大統領は自身のツイッターを通じて、ラカジェ・ポウ大統領との首脳会談にて統合、貿易、民主主義の強化及び人権の尊重の重要性について議論し、ウルグアイで開催し(ウルグアイが)優勝したワールドカップ第1回大会から100年後の2030年ワールドカップ開催立候補に対する関心を再確認した旨述べている。

#### (11) ブスティージョ外相のブラジル外相及びアンドラ外相との会談

24日、イベロアメリカ・サミットの枠組みの中で、ブスティージョ外相は、アルバレス西外相及びヴィエラ伯外相と会談を行った。その後、ブスティージョ外相は、マリア・ウバック・フォン・アンドラ外相とのバイ会談を実施し、政策協議メカニズムの覚書に署名を行った。

#### (12) 第28回イベロアメリカ・サミット

25日、ラカジェ・ポウ大統領は、ブスティージョ外相とともにドミニカ共和国で開催されたイベロアメリカ・サミットに出席。ラカジェ・ポウ大統領は、環境評価に加え、政治プロセスについても持続可能性が考慮されるべきと指摘。また同大統領は、グリーン水素を含む再生可能エネルギーはラテンアメリカにおける発展の機会を提供すると述べた。さらに同大統領は、ラテンアメリカ・カリブ諸国と欧州のスペインとポルトガルが集まるこの種の会合は、メルコスールと欧州が締結しようとしている合意について声を上げる好機であると述べた。

#### (13) CIA 副長官の当国訪問

26日、デイビッド・コーエン CIA 副長官が当国を訪問。アルバロ・ガルセ国家戦略情報庁長官、ルイス・ヘベル内務大臣、ホセ・アザンブヤ国家警察長官等のウルグアイ政府高官や、フルトン駐ウルグアイ米国大使と会合を行った。政府関係者によると、コーエン CIA 副長官の今次当国訪問目的は、組織犯罪対策等の協力について、ウルグアイ政府高官と協議することであった。

#### (14) イスラエル企業とのテクノロジー協力

26日、イスラエルを訪問したパガニーニ工業エネルギー鉱業大臣は、ウルグアイ・イノベーション・ハブ・プログラムの枠組でウルグアイにテクノロジー起業支援機関を設立するための覚書にイスラエル企業 OurCrowd 社と

もに署名を行った。ウルグアイ・イノベーション・ハブ・プログラムは、国家投資イノベーション振興庁(ANII)のもとで運営される官民連携プログラムであり、国内外のスタートアップ企業の加速化を支援し、投資資金調達を行い、ローカルエコシステムを強化するオープンラボの設置を促進するものである。

#### (15) 独ウルグアイ・エネルギー転換促進にかかる技術協力協定

29日、パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣、及びロベルト・ハーベック独副首相兼経済・気候保護大臣はベルリンにて、再生可能な資源と代替燃料の開発における共同活動を展開するための両国間の技術協力及び知的交流の枠組み設立に係るエネルギー協定に署名を行った。本協定により、両国の大臣で構成される運営委員会が設立される。また、グリーン水素、エネルギー効率、電気モビリティ、バッテリーストレージ等のテーマに関する交流及び活動を促進するためのワーキンググループが設立される予定。なお、本協定の締結は、3月28日～29日に開催されたベルリン・エネルギー転換ダイアログにウルグアイが参加した際に行われ、同ダイアログにはパガニーニ工業エネルギー鉱業大臣、スティパニシク国営燃料公社(ANCAP)総裁、及びゴンサレス工業エネルギー鉱業省グリーン水素開発のためのH2Uプログラムコーディネーターが代表として出席していた。

### 3 経済

#### (1) ジャック・マー氏の当国訪問

中国の企業家でアリババグループ創始者のジャック・マー氏が、ウルグアイの食肉セクターへの投資を検討すべく当国を訪問。同氏は、東部のラバジェハ県に所在する食肉加工業者のソリス・ミート社(ウルグアイ資本)やマルドナド県の私有地を訪問した。ウルグアイ食肉協会(INAC)によると、ソリス・ミート社は、と畜量国内シェア2.3%を占める中規模企業で、複数の中国企業をクライアントに持ち、米国、EU、日本、イスラエル、ロシア他にも食肉を輸出している。

#### (2) 2023年対ウルグアイ4条協議

6～17日、パウ・ラバナール IMF 調査部副部長率いる IMF ミッションがモンテビデオを訪問、ウルグアイ当局との2023年4条協議を実施した。IMF は、同協議後に発表した声明にて、ウルグアイがパンデミック期間中に良質な制度、強力なガバナンス、及び政府の政策措置によって回復力を示した点や、インフレ率が上昇する中、2022年の実質 GDP は健全な成長を見せ、2022年の経済成長率は4.9%に達すると予測する点等を報告した。

#### (3) 米州開発銀行(IDB)からの借入1億4,500万ドル

17日～19日にパナマで開催された IDB 総会に出席したアルベレチェ経済財務大臣は、公共政策及び財政政策促進のための IDB からの借入1億4,500万ドルに署名を行った。同借入は、ポスト・パンデミックにおける経済と財政の再建促進を目的としており、脆弱な世帯の保護や中小零細企業の流動性へのアクセスに向けた政策強化が見込まれている。

#### (4) 2022年貧困データの発表

国家統計院(INE)は、2022年の貧困データを発表。極貧ラインにある人口は全人口の0.3%、貧困ラインの人々は全人口の9.9%となり、貧困ラインに関しては2021年の10.6%を下回った。貧困レベルが最も高いのは、セロ・ラルゴ県、モンテビデオ県、及びトレインタ・イトレス県であり、反対に貧困レベルが最も低いのは、フローレス県、サン・ホセ県、及びコロニア県であった。また、極貧ラインにある世帯は、全世帯の0.2%に上り、これは1,000世帯のうち2世帯が基本的な食料を賄うのに必要な収入を得ていないことを意味する旨報告している。

#### (5) 5G入札要件承認に関する政令

30日、ウルグアイ政府は、5Gネットワークの展開を可能にする3.5GHzの周波数帯の入札に関する要件を

承認する政令を発表した。同入札は、入札参加企業に条件を設けるものの、オープンな入札となる予定。

#### 4 要人往来

##### (1) 往訪

- ・1日～8日：アルベルト・ニ外務次官のインド訪問(第5回印ウルグアイ政策協議)。
- ・7日：ブスティージョ外相、アルベレチェ経済財務大臣、ファレロ運輸公共事業大臣のブラジル訪問(本年1月のルーラ伯大統領当地訪問のフォローアップ、閣僚会議実施)。
- ・17日～19日：アルベレチェ経済財務大臣のパナマ訪問(IDB 総会)。
- ・23日～27日：ラカジェ・ポウ大統領、及びブスティージョ外相のドミニカ共和国訪問(第28回イペロアメリカ・サミット)。
- ・26日：パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣のイスラエル訪問(イスラエル企業との覚書署名)。
- ・28日～29日：パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣、スティパニシク国営燃料公社(ANCAP)総裁のドイツ訪問(ベルリン・エネルギー転換ダイアログ)。

##### (2) 来訪

- ・6～17日：パウ・ラバナル IMF 調査部副部長の当地訪問(IMF4条会議)。
- ・14日：ラミス外務省米州・カリブ局長の当地訪問(仏ウルグアイ政策協議)。
- ・16日：アルゼンチン、ブラジル、チリ、パラグアイ、ボリビアの農牧大臣等(第13回南部農業審議会臨時会合)。
- ・17日：カフィエロ外相の当地訪問(外相会談)。
- ・26日：デイビッド・コーエン CIA 副長官の当地訪問(ウルグアイ政府高官との協議)。